

青少年育成ひろしま情報誌

はぐくむ

2014.2 vol.7

ほぐくもう。子どもも、私も。



● 夢配達人プロジェクト推進事業

「子どもたちの夢をみんなの協力で実現させました！」

● 市町民会議ネットワーク研究・交流会

● いきいき地域活動紹介

● 青少年を取り巻く環境調査結果報告

● 青少年育成カレッジ「総合講座」



特集

平成25年度青少年育成県民運動推進大会

「みんなちがって、みんないい。」

金子みすゞの世界～朗読・コンサート

朗読・小林綾子さん 演奏・西村直記さん

「夢配達人プロジェクト」で備後絆を着て備後の歌や民謡を披露した福山市立多治米小学校の児童



公益社団法人 青少年育成広島県民会議

青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとするれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の个性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人) 一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会) 一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然) 一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界) 一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括) 一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。





02 **特集／平成25年度青少年育成県民運動推進大会
表彰・開会**



04 **【私たちの活動発表】
「備後絆を着て民謡や踊りを披露します」
福山市立多治米小学校**

06 **～金子みすゞの世界～朗読・コンサート
「みんなちがって、みんないい。」
朗読は女優の小林綾子さん、作曲シンセサイザー演奏に西村直記さん**



12 **「少年の主張」・中学生話し方大会2013
第35回「少年の主張」広島県大会
第47回 中学生話し方広島大会**

13 **県民運動「あいさつ・声かけ」
ちょっとしたあいさつ・声かけが青少年の非行防止、健全育成につながります**



14 **夢配達人プロジェクト推進事業紹介
～子どもたちの夢をみんなの協力で実現させました!～**

18 **市町民会議ネットワーク研究・交流会
県民活動の活性化を目指して**

20 **いきいき地域活動紹介
広島市西区青少年健全育成連絡協議会
庄原市東城自治振興区青少年育成事業
大竹市青少年育成市民会議
青少年育成府中町民会議**



24 **「青少年を取り巻く環境」調査結果報告
青少年育成地域リーダーに聞きました**



26 **青少年育成カレッジ「総合講座」
県立広島大学 総合教育センター 准教授 学生相談室長 金山健一さん
県立広島大学保健福祉学部 作業療法学科 助教 永吉 美香さん**



はぐくむ vol.7 2014年2月10日発行

発行人／(公社)青少年育成広島県民会議

企画・編集／(公社)青少年育成広島県民会議

〒730・8511 広島市中区基町10-52 広島県環境県民局県民活動課内

TEL:082-513-2742 FAX:082-511-2173

URL: <http://www.hiro-payd.or.jp>

編集協力／株式会社クロスディバプリッシング

平成25年度 青少年育成県民運動推進大会

平成25年11月2日(土)、
広島市中区大手町の広島
県民文化センターで、青少
年育成県民運動推進大会
を開催しました。



開会に先立ち、広島県知事表彰を行いました。永年にわたり青少年の健全育成に尽力した方々や団体、また模範的な活動を行っている団体、個人を表彰しました。

大会次第

【開会】

◎表彰

青少年健全育成功労者等県知事表彰
「家庭の日」に関する作品の県知事表彰

◎開会あいさつ

(公社) 青少年育成広島県民会議会長

◎来賓祝辞

広島県知事 広島県議会議長

【わたしたちの活動発表】

～夢配達人プロジェクト推進事業から～
発表：福山市立多治米小学校
備後絆を着て福山の民謡や踊りを披露

【金子みずぶの世界 朗読・コンサート】

◎詩の朗読 小林綾子氏

◎演奏 西村直記氏(シンセサイザー)

【閉会】



平成25年度青少年健全育成功労者等知事表彰受賞者名簿

(50音順、敬称略)

(青少年健全育成功労者25名)

赤松由通(尾道市) 浅岡正行(広島市) 石田邦夫(広島市) 板原陽子(尾道市) 大原靖(広島市) 金子郁枝(広島市)
神田八重子(呉市) 久賀孝(広島市) 小山幸子(広島市) 瀬川龍之(広島市) 高免こずえ(広島市) 玉川雅彦(東広島市)
檀上圭司(尾道市) 辻秀司(広島市) 堤静枝(広島市) 長見雅美(広島市) 西廻深雪(広島市) 濱田直征(広島市)
林正武(広島市) 松浦恭司(東広島市) 松下和枝(広島市) 三原博(広島市) 村上治(尾道市) 矢野喜生(広島市)
吉田悦子(広島市)

(育成功労団体6団体)

川地野球シニアクラブ(三次市) 五剣会八幡支部スポーツ少年団(広島市)
青少年育成府中町民会議(府中町) 広島己斐剣心会スポーツ少年団(広島市)
全日本少林寺流空手道連盟 錬心館広島地区本部(東広島市) 読み聞かせグループ みどりの森の絵本館(安芸高田市)

(模範青少年1名)

三吉大暉(福山市)

(模範活動団体1団体)

安芸の子リーダー養成協会KAPPA組(広島市)



平成25年度「家庭の日」に関する作品の知事賞受賞者名簿

(作文の部)

特選 黒田 零月 東広島市立三ツ城小学校1年
特選 瀬戸結依香 東広島市立寺西小学校2年
特選 辻本 美咲 広島市立庚午中学校2年

(図画の部)

特選 安間 隼斗 広島市立飯室小学校2年



大会の終わりに当たり、公益社団法人青少年育成広島県民会議の山内副会長があいさつし、全日程を終了。青少年育成県民運動推進大会を閉会しました。

次に、当県民会議では「家庭の日」をテーマに、県内の小・中学生を対象に作文・図画を募集しておりますが、今年度は小学校58校、中学校53校から作文、図画を合わせて2,052点の応募がありました。その中で特選に選ばれた4名が県知事賞を受賞しました。

式典では、主催者を代表して、公益社団法人青少年育成広島県民会議会長 上田宗岡が開会のあいさつをしました。



私たちの活動発表

夢配達人プロジェクト

福山市立多治米小学校

「備後絣を着て福山の民謡や踊りを披露します」

平成24年度に採択され今年度実施の「夢配達人プロジェクト推進事業」に参加した、福山市立多治米小学校の子どもたち。「備後絣を着て福山の民謡や踊りを教えてもらって、たくさんの人の前で披露したい」という夢を実現するため、地域の皆さんの協力を得て、多治米の伝統的な文化の継承に取り組みました。

同推進大会当日、子どもたちは備後絣(かすり)を使った多治米法被(はっぴ)を身にまとい、「二上りおどり」に挑戦。夢実現への道のりと活動の様子を報告しました。

二上りおどりに挑戦 福山の文化を継承

まずは多治米小学校の児童70人が、「二上りおどり」を踊りながら登場しました。

この踊りは、福山で江戸時代から守り続けられ、広島県無形民俗文化財に指定されています。お盆のころに夕涼みがてら、三味線や尺八の音に合わせて思い思いに踊つたのが始まりです。最初はうちわを手に使っていたのが、いつからか「四つ竹」に。毎年8月13日には「福山夏まつり 二上りおどり大会」が開かれ、二上りおどりは福山の大切な文化の一つとして受け継がれています。子どもたちは福山の踊りとして「二上りおどり」を取り上げ、福山古典芸

能保存会会長の星野由幸さんから踊りの指導を受けました。

四つ竹は副会長の金藤さんが準備し、地域の人たちの力も借りながら自分だけの「マイ四つ竹」を手にしました。「ゆつたりとした音楽に合わせて四つ竹を鳴らすことは難しい」と言っていた子どもたちですが、少しずつ音が合うようになり、今では最後まで楽しく踊ることができるようになりました。

1月の「とんど」の時に歌われる「とんど音頭」も練習中です。

地元への思いを強めた 「ふれあい音頭」

多治米の民謡や踊りを探して、家族や地域に聞き取りを実施。「多治米ふれあい音頭」に出会いました。

この音頭は8年前、多治米西町内会の40周年を記念して作られたもの。隣近所の人の顔が見える町になってほしいという願いが込められています。歌詩を徳田アツ子さんが、曲を藤原真



理子さんが考え、徳田さんは振り付けも担当。子どもたちは作曲者の藤原さんに夢配達人をお願いすることになりました。

毎年8月に行われる「多治米西夏祭り」で踊りを発表することを目標に、6月から練習を開始。ふれあい音頭は、「みんなの笑顔 輝いて お日さまニッコロ 笑ってる チョイト」で始まる明るい歌。すぐに口ずさめるようになり、笑顔で踊れるようになったそうです。

ステージで、踊りのポイントを紹介しました。

★踊りのポイント

1. 伸ばすところは伸ばす
2. しつかり指先を見る
3. 右チヨン、左チヨンに合わせて首をかわいく傾ける
4. かけ声の「ふれあい」をそろえる
5. 「おいで、おいで」もそろえる



学校、地域で踊りを披露 地域の人と一緒に楽しむ

続いて、活動報告です。子どもたちにとつて、大変楽しい経験となったことが伝わってきます。

●7月19日、1学期の終業式

全校のみんなだけでなく、お父さんやお母さん、地域の人たちにも見られているのでとても緊張しました。マイクなしで体育館いっばいに響く、大きな声で歌うことを心掛けました。手拍子をしてくれたので、リズムにのって楽しく踊ることができました。藤原さんや先生たちが「上手に踊れたね」「一緒に踊りたい気持ちになったよ」とほめてくださったので、とてもうれしかったです。

●8月3日、夏祭り

地域の人たちが準備してくださった



焼きそばをいただき、おなかと心の準備を整えて本番に。多治米西町内会の人たちをはじめ、500人以上のお客さんの前で踊りました。教えていただいた踊りのポイントを思い出しながら、笑顔でリズムに乗って踊りました。踊り終わると大きな拍手をいただき、とても気持ちよかったです。その後、地域の人たちと一緒に楽しく踊ることもできました。笑顔いっばいの夏祭りになることができ、みんな大満足でした。

郷土文化の備後絣にも関心 しんいち歴史民俗博物館を見学

子どもたちは「二上りおどり」と「ふれあい音頭」を学び、たくさんの方の前で披露してきました。そのうち自然と「備後絣」にも関心を寄せるようになり、作り方や歴史を調べました。その内容を発表しました。

この夢がスタートしたころ、私たちは備後絣について全く知りませんでした。作り方や歴史についても知りたいという思いから、「しんいち歴史民俗博物館」へ電話をかけて日程調整をすませ、5月に見学しました。

博物館では、備後絣が綿からでき、綿は綿織り機という道具を使って取り出し、綿は糸車を使って紡いで糸にすることが分かりました。糸はすぐに切れてしまい、すごい技術だと感心しました。



出来上がった糸は私たちがすっぽり入ってしまうくらいのおおきさのかめで藍色に染め、機織り機でいろいろな模様の備後絣を織り上げて完成です。

備後絣の衣装を手作り 保護者に笑顔で感謝

子どもたちが身につけている法被・はちまき・シユシユはすべて、お母さんたちの手作りです。製作の様子を振り返りました。

石塚先生の知り合いから分けてもらったウールの備後絣。出来るまでには、いろいろな工程がありました。どんな形にするかを決めて型紙を作ったり、型に合わせて布を裁断。そして裁断した布を縫い合わせます。最後はアイロンをあてて仕上げます。2カ月と



いう期間をかけて、やっと80人分が完成しました。

ステージのスクリーンに、初めて法被を着た時の笑顔の写真を映し出し「学校に集まったり家に持ち帰ったりしての作業、本当にありがとうございました」と保護者に感謝の気持ちを表しました。

手作りの備後絣を身につけ、少し誇らしげな子どもたち。「わたしたちの夢は、たくさんの方々の力を借りながら初めて実現したものです。今まで守られてきた文化を大切に、これからわたしたちが守っていきたくて思っています」と堂々と宣言。最後に「多治米ふれあい音頭」を披露し、ステージ、客席へと踊り出していきやかに退場。活動発表を終えました。

金子みすゞの世界〜朗読・コンサート

「みんなちがって、みんないい。」

金子みすゞの世界〜朗読・コンサートでは、女優の小林綾子さんが金子みすゞの詩を朗読し、その後、その詩に曲を付けた西村直記さんが、シンセサイザーを演奏しながら歌を披露されました。会場が一体となり、癒された雰囲気になりました。

小林さんと金子みすゞの出会い

「こだまでしょうか」
「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていう。
「馬鹿」っていうと
「馬鹿」っていう。
「もう遊ばない」っていうと
「遊ばない」っていう。
そうして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。
「こだまでしょうか
いいえ、誰でも。」

小林 皆さん、こんにちは。小林綾子です。そして、作曲家、シンセサイザー奏者の西村直記さんです。今日は皆さまと一緒に、金子みすゞの世界を楽しみたいと思います。

広島には何度か伺ったことがあり、最初は、高校生のときの修学旅行のようなかたちでした。平和記念公園や広島平和記念資料館を訪れ、広島について勉強をしました。そのときに感じたことを、今でも鮮明に覚えております。そして今年、舞台の巡業で広島に伺いました。5月の新緑のころで、朝に川のほとりを散策したことがあります。このたびは秋に訪れることができ、紅葉がきれいに色づいていますね。広島はいいところだなと思います。

今、お聞きいただいた『こだまでしょうか』という詩。東日本大震災のときにACジャパン（公益社団法人ACジャパン）のCMで、すいぶん流れていましたよね。私はこの詩を聞いて人に寄り添う気持ち、思いやる気持ちは大事だなと感じました。皆さんも被災地の方に思いを寄せることができたのではないかなと感じています。みんなのおかげで東北も頑

張っていますよね。これからも応援したいなと思います。

この金子みすゞさんの詩をご存じだという方は？（客席の小学生から手がたくさん上がる）。小学生の方、大人の方よりも優秀。小学生は教科書に載っているというところで、学校で勉強されたのかな。大人の方は、「CMで初めて知ったわ」という方もいらっしゃるかなと思います。

私が見すゞさんを知ったのは、今から

●作曲・シンセサイザー 西村直記

愛媛県松山市生まれ。東京芸術大学卒業。作曲家、演奏家、そしてたった一人の音楽巡礼者。四国八十八カ所霊場めぐりを経て、世界八十八カ所を巡り終え、現在は新世界八十八カ所を音楽巡礼中。90年、日本人として初めてパチカンにてローマ法王の謁見演奏。98年、ユネスコ公認ビデオ「世界遺産」（10枚組）の音楽を担当。97年5月30日、NYカーネギーホールデビュー。金子みすゞに激しく共感し、2002年3月に全512編のすべての詩に作曲を終えた。

●詩の朗読

小林綾子

東京都出身。立命館大学卒業。タレント、俳優としてテレビ、映画、舞台などで活躍中。幼少期よりドラマやCMを中心にタレント活動を始め、1983年、NHK連続テレビ小説『おしん』の少女時代を演じて人気を博す。主な出演作には、TBS『渡る世間は鬼ばかり』『水戸黄門』、フジテレビ『剣客商売』、映画『四日間の奇蹟』『ホテル』、舞台『雪の花道』『信長』など。また、司会、レポーターとしてさまざまな番組に出演。趣味・特技は、日舞、クラシックバレエ、ソシアルダンス、茶道、読書、映画鑑賞、ウクレレ。

20年ほど前です。NHKのドキュメンタリードラマ「こころの王国・童謡詩人金子みすゞの世界」で、金子みすゞ役をやらせていただきました。今日もライブワークのように、毎年、金子みすゞの朗読をさせていただきます。みすゞさんのことは全く知らなかったのですが、ドラマをやるにあたり詩集を開いてみる



と、詩はとても温かくて、優しく、こんな深いまなざしを持った見方のできる女性がいたということに衝撃を受けました。読んでいくうちに、今まで見えなかったものがだんだん見えてきたり、聞こえなかったものが聞こえるようになってきたり、感じられなかったことが感じられるようになってきました。「こんな素晴らしい女性詩人がいらっしやう。ぜひ世の皆さんにも知ってもらいたいな」と思い、大好きになりました。

みずぶさんの詩を読んでいると、いろんな発見をさせてもらえることが多いです。普段、忘れてしまったことを思い出させてくれるような詩がたくさんあります。今日は、皆さんにみずぶさんの詩を聞いているんなことを思いながら、お家に帰っていただきたいなと思います。

金子みずぶの世界が 広く知られるようになるまで

金子みずぶさんは、本名を金子テルといます。明治36年山口県大津郡仙崎村、現在の長門市に生まれました。大正12年、20歳のころからペンネーム、みずぶで童謡を書き、以後、昭和4年までに90点の童謡を発表しています。このころに、優れた作品を次々に発表し、誌上で西條八十に認められ、若き投稿詩人たちの憧れの星となりました。昭和5年、残念ながら26歳の若さでこの世を去りました。その後、みずぶの作品は散逸し、幻の童謡詩人となりましたが、関係者の長年の努力

により多くの作品が見つかり、512編の詩が広く世界に伝えられるようになりしました。

みずぶさんの詩には、全編に共通することがあります。それは、自分よりも先に相手を思いやる気持ちが根底に流れているということ。こつこつ心は本当に大事だなと思います。そんな思いを胸に、次の詩をご紹介します。

自然の懐に抱かれて 相手を思いやる気持ちを知る

「土」

こつつん こつつん

打たれる土は

よい畠になって

よい麦生むよ。

朝から晩まで

踏まれる土は

よい路になって

車を通すよ。

打たれぬ土は

踏まれぬ土は

要らない土か。

いえないそれは

名のない草の

お宿をするよ。

小林 私は皆さんと同じ年齢の小学4年生、10歳のときに『おしん』というドラマをやらせていただきました。30年も前

の話なので、小学生の皆さんは知らないですね。東北の貧しい農村の娘の役をやりました。奉公に出たり、奉公先でいじめられたり、ドラマの中ではつらい思いをして、放送後もお会いしたおじいちゃんやおばあちゃんに、「大変だったね」「つらかったね」と言われました。実際の生活は、普通の小学生で大変な思いはそれほどしていなかったのですが、みずぶさんが皆さんと同じぐらいのときには、いろんな思いでものを見ていたのだろうなと思います。そつこつ詩がたくさん出てきます。

私の出身は東京ですが郊外で自然が豊かでした。学校から帰るとかばんだけを置いてすぐに外に出ます。誰かしら遊んでいるお友達がいて、「私も入れて」と言うと一緒に遊ばせてくれるんですね。小学校低学年から中学生ぐらいまでが一緒にあって、ドッジボールやドロケイや缶蹴り、ときには木登りなどをして楽しく過ごしました。大きいお兄さんが子どもに面倒をみる。幅広い世代の人たちと一緒に遊ぶことは、社会の勉強になっていきたなと思います。そして、自然に触れることは気持ち

とても大らかになり、心が元気でいられるのかなと思います。今、子どもたちを外であまり見かけません。見かけても、公園でお母さんが見守る中、危なくないかどうか確かめられながら遊んでいる姿を見受けません。でも、私が子どもの頃はそんなことは関係なく、遠くまで行って夕方になったら帰るような生活をしていたと思います。電車に乗って町を離れるとすぐに埼玉県の秩父という山。休日には母や友達と一緒に山に登って、自然のいい空気を吸って、土の香りをかいで、緑の匂いを感じて、帰りには川でサワガニを捕ったり、自然と触れ合いながら、大きくなりました。皆さん、そつこつ経験をしていますか。広島のみんは大丈夫ですね。東京に行くと、子どもの声が聞こえなくなると寂しいなと思います。

山口県の仙崎に行きました。みずぶさんが、ここでこの詩を詠んだのだ、この詩を書いたのはこの景色を見たから、これがあるのだということが非常によく分かったのです。自然はだんだんと少なくなってきたはいませんが、大事に残していかなければいけないなと感じています。みずぶさんが育った山口県の仙崎を思い描きながら、次の詩を聞いてください。



「星とたんぼぼ」

青いお空の底ふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、
昼のお星は眼にみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

散ってすがれたたんぼぼの、
瓦のすきに、だアまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は眼にみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

「誰がほんとを」

誰がほんとをいうでしょう、
私のことを、わたしに。
よその小母さんはほめたけど、
なんだかすこし笑ってた。

誰がほんとをいうでしょう、
花にきいたら首ふった。
それもそのはず、花たちは、
みんな、あんなにきれいだもの。

誰がほんとをいうでしょう、
小鳥にきいたら逃げちゃった。
きつといけないことなのよ。
だから、言わずに飛んだのよ。

誰がほんとをいうでしょう、
かあさんにきくのは、おかししいし、
(私は、かわいい、いい子なの、

それとも、おかしなおかおなの。)

誰がほんとをいうでしょう、
わたしのことをわたしに。

「お菓子」

いたづらに一つかくした
弟のお菓子。
たべるもんかと思ってて、
たべてしまった、
一つのお菓子。

母さんが二つツていったら、
どうしよう。

おいてみて
とってみてまたおいてみて、
それでも弟が来ないから、
たべてしまった、
二つめのお菓子。
にがいお菓子、
かなしいお菓子。

誰かの役に立てることが喜びに 美しい行為は 別の美しい行為を生む

小林 『お菓子』という詩、かわいい詩で
すよね。おなががすいていたんでしょ
かね。本当にかわいい詩だなと思います。
次にご紹介をしたいのが、『草原の夜』

という詩です。20年前は、この詩に強い
印象を持っていませんでしたが、大人に
なるにつれて大好きになりました。描か



れている景色がとても幻想的で、
美しい詩です。その中に流れていること
がとても温かくていいなと思っています。
人は、誰にでも優しくされるとうれしく
なりますよね。うれしくなると、今度そ
れが喜びに変わって、また、誰かに何か
をしてあげようかしらという気持ちにな
ることがあるじゃないですか。そうする
と、また、そのしてもらった人も、じゃあ、
こういうふうにしようかしらと、いい方
向にどんどん動いていく。そんなことが
描かれていて、私はこの詩が大好きにな
りました。

美しいものに出会ったときに、優しい
気持ちになれるのが、やっぱり人の素晴
らしさだと思っています。自分の存在が
誰かの役に立っていると思つたときに、
それが喜びになりますよね。美しい行為
は、本当に美しい行為を生むのだと思
います。

「草原の夜」

ひるまは牛がそこにいて、
青草たべていたところ。

夜ふけて、
月のひかりがあるいてる。

月のひかりのさわるとき、
草はすっすとまた伸びる。
あしたも御馳走してやると。

ひるま子供がそこにいて、
お花をつんでいたところ。

夜ふけて、
天使がひとりあるいてる。

天使の足のふむところ、



かわりの花がまたひらく、
あしたも子供に見せようと。

西村と金子みづぶんの童謡

小林 皆さん楽しんでただけてますか？詩にすてきなメロディをつけていただいている西村さんにいろいろお聞きしたいと思います。

西村さんがみずぶんの詩と出合ったきっかけは何だったのですか？

西村 若田光一さんが乗った、エンターテインメントの打ち上げを見に行ったときの宇宙開発事業団の20人ぐらゐのツアーでのことです。その中のお一人、矢崎節夫さんが、みずぶんの詩を見つけて届けてくれました。そのとき、私だけがみずぶんを知らなかったのです。「大正末期の天才といわれた童謡詩人だよ。童謡というのは、おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さん、そして子どもたちの三世代が心を一緒にできる、共有できる」ということを教えていただきました。

童謡というのは、小学校のときに無理やり音楽の時間に歌わされていたような文部省唱歌とごちゃ混ぜになっていました。その時、『大漁』という詩を聞かせていただき、涙がぶわーっと出てきて止まりませんでした。分かりやすい言葉で、魂を揺さぶるようなすてい詩を書く人がいたのだ、と。作曲家として、この人の詩に曲を書いてみたいという気持ちになりました。

アメリカから帰ってきて、矢崎先生か

ら全集を送っていただきました。添えられた言葉は、「ぱっと開いたところが西村直記さんの必要な詩ですよ。ぱっと開いたら『大漁』という詩でした。

作曲するときには、詩を読まないんですよ。「朝焼」というふうに、詩を読むというよりは、詩と一緒にメロディが出てくるものだから、すぐにできちゃうんですね。皆さんにお聞かせしています。が歌は下手なので、そのことを思いやむでもメロディーが美しいと思ったり、じっくり聞いていただければ…。

小林 詩とよく合っていると思います。

そのほかに、巡礼もされているんですよね。**西村** 愛媛大学の講師をしていたとき、当時4歳だった長男と妻が、松山にあるホールのオーケストラボックスから5mぐらゐ下に落ちて、「もう助からない、助かったとしても一生寝たきりになるかもわからない」と言われました。悪いことは続くもので、当時、私の音楽教室の生徒が30人のうち半分ぐらゐ辞めたのです。非常に厳しく教えていました。人間としても教育者としても音楽家としても、大きな挫折を味わいました。

すく近くのお寺に行きました。道後温泉のそばで、四国八十八力所の石手寺です。信仰心は全くなかったのですが、一生懸命拜んでいるお遍路さんの姿や線香の煙、お経の声を聞いているうちに、光のようなものが見えて、自分自身も家族も助かるのではないかと感じました。お四国参りを始めて7年半、音楽家ですの一つのお寺に曲を書きました。NHK

の番組で音楽を流していただきDVDで販売されています。

最後に高野山に行き、「高野山を出発点にして世界の平和と鎮魂を祈ろう」と巡礼を考えました。平成25年7月29日に、県の要請で広島島のハノーバー庭園でコンサートをしたのが82力所目。ハノーバー庭園の曲を5曲ぐらゐ書きました。その後、中国の西安で88番目を終えました。25年間かかりましたが、結願（けちがん）をしたということ。今日は初めてのコンサートです。

小林 88力所を巡られたお気持ちは？

西村 世界でたった一人の音楽巡礼者といわれています。もう一回、死ぬまでずっと回り続けるというのが、巡礼というものではないかと思つて。訪れるごとに曲が生まれてきます。自然が伝えてくれるものがあつて、それを五線紙に移して演奏をします。今回はみずぶんの曲だけ

なので残念ながら演奏しませんが、来年の平成26年3月7日広島グリーンアリーナで公演のときにはぜひ聴いてください。

何事も明るく楽しく、一生懸命やれば道は開ける

西村 僕は音楽家ですが音痴でした。今の子どもたちで音痴はいないと思います。が、親が音痴だと必ず子どももそうなるんです。

小林 残念なことをおっしゃいますね。

西村 私の母親が音痴で、私と妹と弟に子守唄を歌っていました。音痴3兄弟で有名です。私が東京芸術大学に通ったとき、隣のおばちゃんに「東京芸術大学は歌の試験がないんだね」と言われたぐらゐ。僕が音楽を好きだったのは、僕が歌うと皆さん喜んでくれるから。節ボケ





夕顔に、
さびしくないの、と、
ききました。

お乳のいろの
夕顔は、
さびしくないわ、と
いいました。

お空の星は、
それっきり、
すましてキラキラ
ひかります。

さびしくなった
夕顔は、
だんだん下を
むきました。

「積った雪」

上の雪
さむかるな。
つめたい月がさしていて。

下の雪
重かるな。
何百人ものせていて。

中の雪
さみしかるな。
空も地面もみえないで。

「蛙」

憎まれっ子、

憎まれっ子、
いつでも、かつても、誰からも。

雨が降らなきや、草たちが、
「なんだ、蛙め、なまけて。」と、
それをおいらが知る事か。

雨が降り出しゃ子供らが、
「あいつ、鳴くから降るんだ。」と、
みんなで石をぶつつける。

それがかなしき、口おしき、
今度は降れ、降れ、降れ、となく。

なげばかりと晴れあがり、
馬鹿にしたよな、虹が出る。

「なぜ「どつて」の気持ちを大事に 逃げずにきちんと対応してほしい」

小林 みずぐさんの詩は優しさとか思い
やりとか、温かいイメージが強いかと思
いますが、実は、『蛙』と、『きりぎりす
の山登り』の詩にみられるように、リス
ミカルなものがたくさんあります。『なま
け時計』とか、ユーモアのあるような詩
もあります。

また、みずぐさんの詩には、宇宙的で
グローバルで、世界観の広いものもたく
さんあります。次にご紹介するのは『不
思議』という詩ですが、黒い雲から降る
雨が銀に光っていることに疑問を抱いて
います。

ふと昔を振り返ると、私も小さい頃、母

によく「あれなあに？」とどつしてなの？」
とよく聞いていたなと思います。だ
から、みんなもいろんなことを疑問に思っ
て、先生やお父さん、お母さんに聞いて
みたらいいのではないかと思います。

そして、「どつして？」と聞かれたこと
に対して、大人がきちんと向き合って答
えることは本当に大事だと思っています。
子どもが純粹に疑問に思ったことを、
大人は逃げないではぐらかさないできち
んと対応する、そんな大人になってほし
いと思います。

「不思議」

私は不思議でたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

私は不思議でたまらない、
青い柔の葉たべている、
蚕が白くなることが。

私は不思議でたまらない、
だれもいじらぬ夕顔が、
ひとりでばらりと開くのが。

私は不思議でたまらない、
誰にきいても笑ってて、
あたりまえだ、ということが。

「蜂と神さま」

蜂はお花のなかに、
お花はお庭のなかに、
お庭は土堀のなかに、

「大漁」

朝焼小焼だ
大漁だ
大羽鰹の
大漁だ。

浜は祭りの
ようだけど
海のなかでは
何万の
鰹のとむらい
するだろう。

「夕顔」

お空の星が



土埤はまちなかに
町は日本のなかに、
日本は世界のなかに、
世界は神さまのなかに。

そうして、そうして、神さまは、
小ぢやかな蜂のなかに。

「花屋の爺さん」

花屋の爺さん

花売りに、

お花は町でみな売れた。

花屋の爺さん

さびしいな、

育てたお花がみな売れた。

花屋の爺さん

日が暮れりや、

ぼっつり一人で小舎のなか

花屋の爺さん

夢にみる、

売ったお花のしあわせを。

やはり後に後悔するより まずは挑戦してほしい

小林 私は、この『花屋の爺さん』のワルツのような三拍子の調子がとても好きです。西村さんは512編の詩にすべて曲をつけていらつしやる。どうやってメロディーを考えるんですか。不思議ですね。

西村 僕もよく分かりません。詩の文字を見た途端にメロディーがフツと浮かんで来て、それに五線紙をあてていくだけなので。

小林 詩を見た瞬間に音符が出てくるのですか。天才ですね。みずさんと共通するものがあるのではないのでしょうか。学校で習ったことを覚えるのも大変なのに、まったくゼロから新しいものをつくっていく、曲をつくるってすごいことだと私は思うんです。私はお芝居を仕事にしていますが、ゼロから、何も無いものからつくっていくって楽しいですよ。

西村 そうですね。いろんな役をされるのは大変だろうと思います。人間性がおかしくなりませんか。

小林 いろんな人格になるってことですね。顔は同じですが、いろんな役になれることはとても楽しいです。学校の先生もお医者さんも、主婦も、殺人犯も、普通ではできないような経験をさせてもらっていてありがたいなと思っています。皆さんもいろんなことに挑戦してください。やれなくて後悔するよりも、挑戦してみて、失敗をしちゃったっていいじゃないですか。それはいい経験になります。

ないですが。それはいい経験になります。

「さびしいとき」

私がさびしいときに、
よその人は知らないの。

私がさびしいときに、
お友達は笑うの。

私がさびしいときに、
お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに、
佛さまはさびしいの。

「このみち」

このみちのさきには、
大きな森があろうよ。

ひとりぼっちの榎よ、
このみちをゆこうよ。

このみちのさきには、
大きな海があろうよ。

蓮池のかえろよ、
このみちをゆこうよ。

このみちのさきには、
大きな都があろうよ。

さびしそうな案山子よ、
このみちをゆこうよ。

このみちのさきには、
なにかなにかあろうよ。
みんなで行こうよ、

このみちをゆこうよ。

みんなちがって、みんないい

小林 次の曲が最後の詩となりました。

『私と小鳥と鈴と』。みんな、よく知っているよね。教科書にも載っている、みずさんの代表とされる詩です。せっかくですから、最後の「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」というところを、みんなと一緒に歌いたいと思います。西村さん、ご指導をお願いいたします。

西村 はい。難しいところですね。

小林 詩の朗読をして、最後はみんなまで歌ってみましょうね。

「私と小鳥と鈴と」

私が両手をひろげても、

お空はちっとも飛べないが、

飛べる小鳥は私のように、

地面を速くは走れない。

私からだをゆすって、

きれいな音は出ないけど、

あの鳴る鈴は私のように、

たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、

みんなちがって、みんないい。

小林 本当にありがとうございました。

「少年の主張」・中学生話し方大会2013

平成25年9月21日 エソール広島

第35回「少年の主張」広島県大会 第47回中学生話し方広島大会



県知事賞は岸田寧々さん

中学生が日ごろ思っていること、感じていることを、自由な発想とユニークな視点、飾り気のない言葉で発表する『「少年の主張」・中学生話し方大会2013』。県内の中学校69校7330名の応募から原稿審査を通過した30名が9月21日、エソール広島で思いを発表しました。広島市立国泰寺中学校1年の岸田寧々さんが県知事賞を受賞しました。

受賞名	題名	中学校名	氏名
広島県知事賞 少年の主張全国大会努力賞	人間とは、そんなにえらいの？	広島市立国泰寺中学校 1年	岸田 寧々
(公社)青少年育成広島県民会議会長賞	ことばを伝える	三次市立布野中学校 2年	丸川 海音
広島県中学校話し方連盟会長賞	言葉のことばかり考えて	安芸高田市立高宮中学校 3年	平田怜偉菜
国際ソロプチミスト広島会長賞	一人じゃない	広島市立大州中学校 3年	岡本 知奈
広島清流ライオンズクラブ会長賞	あたり前!?	広島市立大塚中学校 3年	古谷 美穂
優秀賞	受け継ぐ	呉市立白岳中学校 3年	新田 瑞穂
優秀賞	響け!	府中市立第一中学校 2年	定仲 桃香
優秀賞	キャプテンとして	三次市立三良坂中学校 3年	下森 大奨
優秀賞	音で魅せる	安芸高田市立美土里中学校 2年	田中 瑠実
優秀賞	僕たちの目指すもの	江田島市立能美中学校 3年	原野 翔馬
優秀賞	団結すること	北広島町立千代田中学校 3年	友田 直哉



ちよつとしたあいさつ・声かけが青少年の非行防止、健全育成につながります。

「あいち・声かけ運動」

家庭で取組んでいただきたいこと

- 基本的な生活習慣としてのあいさつ・声かけの励行
 ～おはよう。おやすみ。いただきます。ごちそうさま。さうじやます。さうじやうごさう。

● 家族揃って食卓を囲むことの励行

～食卓を囲んでの会話から、子どもの変化が感じられます。

学校で取組んでいただきたいこと

- 登下校時、学校内でのあいさつ・声かけの励行
 ～通学路、校門、ホームルーム等

● 保護者に対する啓発活動

～通信文、保護者会等を活用して

市町等で取組んでいただきたいこと

- 広報紙・会議・集会等での呼びかけ
- 関係機関・団体への協力要請

地域で取組んでいただきたいこと

- 登下校時等における声かけの励行
 ～地域で子どもを育てる

- 地域住民が集い、声がかかあえる場づくり
 ～町内会行事・子ども会行事等への積極的参加の呼びかけ

事業所で取組んでいただきたいこと

- 店内での声かけの励行
 ～さようなら。お帰りの。今日は早うね。早く家に帰ろう。

子ども・若者育成支援強調月間に合わせて11月に県内3カ所で「あいさつ・声かけ運動」を実施



11月5日
JR広島駅前にて

広島県の青少年のマスケット「ゆっぴー」、青少年育成関係団体及び広島県、広島県議会、広島県警、中国運輸局、JR西日本のみなさんと一緒に、県内3カ所で街頭啓発キャンペーンを実施しました。



11月7日
JR福山駅前にて



11月8日
JR西条駅前にて

夢配達人プロジェクト推進事業

～子どもたちの夢をみんなの協力で実現させました!～



県内の小学生から夢を募集し、選ばれた夢を実現する子どもたちの取り組みを、学校や地域の人たちが夢配達人と一緒に支援する事業です。平成24年度に採択され、平成25年度に実現した「夢」を紹介します。

平成24年度採択 平成25年度実現した「夢」 (応募件数1,539件)

市町名	(グループ名) 応募者名(学校名・学年)	夢の概要
広島市	小林 伶鳳 (五日市東小5年生)	手すき和紙で世界にたった1枚の卒業証書を作りたい。
広島市	(似島ワイルド3人組) 豊田 莉子 (似島小5・6年生)	マスコットキャラクターや料理を作って似島をみんなにPRしたい。
呉市	下片野 優 (宮原小6年生)	金澤翔子さんと一緒に書道をしたい。
竹原市	相澤 健太 (竹原小5年生)	JAXAのひと宇宙教室をしてミニロケットを飛ばしたい。
三原市	松田 彪牙 岡田 実優 (幸崎小6年生) 酒見 浩平	子どもが担げるだんじりを作って祭りで担ぎたい。
福山市	(大切な友だち) 小林 優海 (多治米小3年生)	備後絣を着て福山の民謡や踊りを披露したい。
府中市	林 めぐみ (明郷小4年生)	廃校になった小学校を1日だけよみがえらせたい。
東広島市	(夢かなえたいチーム) 竹中 亜花里 (高美が丘小4年生)	地域の人達と一緒に映画を作りたい。
海田町	細国 空 (海田東小4年生)	命の大切さを教える絵本を書きたい。
安芸太田町	(戸小みんなてづくり隊) 山下 穂乃実 (戸河内小5年生)	地域の人と一緒に山に入り間伐をし、鉛筆や遊具を作りたい。

広島市

マスコットキャラクターや料理を作って似島をみんなにPRしたい。

11月17日、地域の公民館祭り(にのしま愛らんどフェスタ)での様子です。

地元の人や来賓の人に、人気のあるキャラクターと料理についてアンケートをとりました。一番人気のあったものを、夢配達人に協力してもらって商品化していきます。

そして平成26年の3月から始まる「瀬戸内しまのわ博2014」というイベントで、似島コーナーの一つとして出店し、PRする予定です。



広島市

手すき和紙で世界にたった1枚の卒業証書を作りたい。

おおたけ手すき和紙保存会の方に、和紙づくりの歴史や原料についてお話を聞きながら、紙パルプ(牛乳パック)を使つての紙すき、コウゾの皮はぎ・へぐりの体験をしました。2月の夢実現イベントに向けて取り組みを進めています。



おおたけ手すき和紙保存会の方から、和紙づくりについて講義を受けました。



初めて紙すきの方法を学びました。



数時間蒸したコウゾを大釜から出し、冷めないうちに1本1本丁寧に皮を剥ぎます。外側の茶色い皮を剥ぎ取りました。



呉市

金澤翔子さんと一緒に書道をしたい。

地域の方々の協力のもと、10月6日に夢配達人の金澤翔子さんとお母さまの泰子さんを迎え、宮原夢つなぎ会夢プロジェクト推進事業を開催しました。翔子さんと一緒に、下片野優さん(宮原中学校1年)や宮原小学校の子どもたちも、真剣に自分の夢を書きました。トークや席上揮毫(きごう)に感動し、子どもたちが自分の夢をかなえたいという思いが高まりました。



下片野優さんの夢が実現



翔子さんの揮毫に感動



翔子さんとお母さまの泰子さんと記念撮影

竹原市

JAXAの人と宇宙教室をしてミニロケットを飛ばしたい。

地域や夢配達人の協力のもと、9月26日に記念行事を開催。夢に向けてミニロケットを高く打ち上げました。



4~6年生が参加したJAXA講師による宇宙教室。



自分たちで製作したミニロケット。打ち上げ成功。



6年生が作成した宇宙に関する資料や掲示物等を展示した宇宙博物館の開館行事。



1~3年生は宇宙へ旅した「NAOKO☆アサガオ」を栽培。

三原市

子どもが担げるだんじり(みこし)を作って祭りで担ぎたい。

5月から6年生児童が中心となって、みこし飾りのデザインや製作など準備を進めてきました。みこし飾りとして、地元幸崎町出身の彫金家 清水南山さんの影響を受けて銅板への彫金にチャレンジしました。

11月1日に三原市立幸崎小学校で、ハッピーフェスティバルを開催しました。みこしを披露し、保護者や地域の方などを前に夢の実現をしました。



福山市

備後絣を着て福山の民謡や踊りを披露したい。

地域の夏祭りで踊られる「多治米ふれあい音頭」と江戸時代から福山に伝わる「二上り踊り」を、2人の夢配達人に教えていただきました。そして、保護者による手作り衣装（備後絣の法被・はちまき・シュシュ）を身につけて披露しました。



8月3日 多治米西夏祭り。
500人以上のお客さんの前で踊りを披露。



9月29日 多治米学区大運動会。大勢の保護者や地域の方に披露。



11月2日 青少年育成県民運動推進大会。広島県民文化センターの舞台でリハーサル。

府中市

廃校になった小学校を1日だけよみがえらせたい。

11月24日、学校や地域の方々の協力のもと、廃校となった久佐小学校が1日だけ復活しました。



地域の方々の見守りの中、登校しました。



夢配達人から指導を受け、地域の人と久佐小学校校歌を歌ったり、一緒に群読を行いました。



夢配達人の指導のもと地域の人と餅つきを行い、みんなで決めた給食メニューも再現しました。



休憩時には、校庭にあるきれいに色付いたイチョウの葉で、大人も子どもも元気いっぱい遊びました。

東広島市

地域の人達と一緒に映画を作りたい。

実際に映画を作っている映画スタッフの指導のもと、地域の方々にも協力・出演していただきながら9月に撮影をしました。2月に完成し、上映予定です。



撮影第2日目（9月28日）
地域の方々と共に共演中。多くの地域の方やPTAの方が協力してくださいました。

撮影第1日目（9月27日）
「ごみのポイ捨てのないきれいなまちづくり」という作品テーマのもと、撮影がスタート。緊張する中、島田監督さんやスタッフの皆さんにその緊張を解きほぐしていただきながら撮影が進んでいきました。



撮影第3日目（9月29日）
たくさんの方々協力のもと、無事に撮影が終了。映画タイトルは、「住処は心の鏡～高美が丘クリーンアップ大作戦～」に決まり、2月に上映予定です。



（12月11日）
東映より田崎竜太監督さんをお招きし、講演をしていただきました。映画づくりにおける苦労や工夫、喜びなどをお聞きしました。

安芸太田町

地域の人と一緒に山に入り間伐をし、鉛筆や遊具を作りたい。

さまざまな分野の夢配達人からの指導・助言を受けながら、町内の間伐材を伐採することからスタート。手作りによる2000本の鉛筆が2月にいよいよお披露目です。



6月4日、間伐材伐採。太田川森林組合の協力により、ヒノキを15本伐採しました。

6月27日、出前講座。北星鉛筆株式会社 専務 杉谷龍一さんを招いて、「鉛筆の秘密」の講演後、「簡単手作り鉛筆づくり」に挑戦しました。

11月26日鉛筆板製材河本組へ出向き約5か月間乾燥させたヒノキを鉛筆板へと製材しました。



12月17日、鉛筆作成。鉛筆板の木型をはずして、芯を入れて木工ボンドで接着。いよいよ最終段階へ。これからはアイデアを出してデザイン作業へ入ります。

海田町

命の大切さを教える絵本を書きたい。

夢配達人の毛利まさみちさん（絵本作家）の指導を受けながら保護者、学校、地域の方々の協力のもと学年全体で命の学習、色付けをしました。3月21日の完成発表に向け仕上げ段階を迎えています。



海田町ふるさと館のクスノキを見てイメージをつかみました。



5年生のお父さん（消防士）から身近な命と想いを話していただきました。

慎重に色塗りする子供たちと心配そうな校長先生

平成25年度採択（平成26年度実現予定の夢）

今年度は9月26日に夢選考委員会を開催し、応募総数1,244件の中から次のとおり10件の夢を採択しました。

市町名	(グループ名) 応募者名(学校名・学年)	夢の概要
広島市	こさか ゆう 小坂 優 (草津小5年生)	地域の神社の祭りを復活させたい。
広島市	きむら みやび 木村 京珠 (段原小5年生)	みんなに手伝ってもらって、広島の食材を使ったお寿司を作りたい。
広島市	まとは まい 的場 舞 (可部南小4年生)	自分たちで米を作り、その稲わらでぞうりを作りたい。
福山市	たなか ひびき 田中 響 (緑丘小6年生)	巨大イルミネーションを作って、地域のみなさんへ感謝のメッセージを伝えたい。
福山市	(松塩) たけみつ やまと 竹光 大和 (松永小3年生) のぼりたて 登立 光咲	地域や学校のみなさんと一緒に昔の塩づくりの方法で松永の塩を作りたい。
三次市	ながはた さや 長畑 桜弥 (八幡小4年生)	専門家に手伝ってもらって、地域にある滝をきれいにして探検したい。
大竹市	しまづ みゆ 島津 美夢 (小方小6年生)	島の人達ともちつき大会をして、交流したい。
東広島市	みちおか さきと 道岡 咲翔 (三永小3年生)	レゴブロックで厳島神社や原爆ドームを本物そっくりに作りたい。
廿日市市	(ISI20) むかい ゆりあ 向井 優里彩 (阿品台西小6年生)	学校のシンボルツリー「双けやき」の絵本を作りたい。
北広島町	(スマイルチーム) しろまさ りん 白砂 凛 (大朝小5年生)	大朝を舞台にしたドラマを作りたい。

平成25年度 市町民会議ネットワーク 研究・交流会

県民活動の活性化を目指して

すべての県民の参加により青少年育成県民運動が活発に行われるように、地域における機能的な運動組織として各市町民会議が設置されています。当県民会議では、各市町民会議活動の普及促進を図るため、毎年、市町民会議ネットワーク研究・交流会を開催しています。

次世代を担う青少年育成を考える

平成25年度は8月30日(金)、東広島市民会議の協力を得て東広島運動公園体育館内で開催しました。各市町民会議の関係者・青少年育成県民運動実践委員・青少年育成地域リーダーが一堂に会し、次代を担う青少年育成のための方策についての研究・交流会を行いました。

講演会

講師／ビストログループ

代表取締役CEO 川田 昭司氏

今も昔も変わらない「当たり前のこと」

あいつの大切さは昔から言われてきたのですが、こんなに時代が変わっても、どんな企業でもそれは変わりません。あいつの力・行動力、これらができ

て人間味が生まれます。当たり前のことですが、当たり前だからこそ大切にしていることです。

忘れてはならないのが「初心」

ベテランと言われるほどに、いつしか仕事に慣れてしまい、最初の緊張感がなくなってしまう。緊張感がなくなれば、あいつや礼儀がないがしろになり、決してよい仕事はできません。成功した時、失敗した時、それを謙虚に受け止めて、初心に返って努力することです。大切にしていることは笑顔です。笑顔で対応できることが最高の魅力です。

人生は仮面ライダー

小学生の頃、テレビでよく見た「仮面ライダー」は永遠の憧れのヒーローです。悪者と戦う青年が、変身をするところカッコ

いい仮面ライダーとなり強くなります。

それは、現代を生きる人間も同じで、人は変れます。もともと自分が変わり、自分を変え、少しずつ変身する勇気があれば人生は楽しく歩めます。その答えは「人との出会いと失敗の数、そして3倍の努力」……そう信じてやみません。

実践発表

青少年育成東広島市市民会議
造賀小学校区地域活動代表推進員
渡邊 高守氏

「造賀学園夏物語」



昭和30年代の造賀地域は保育所・小・中・高等学校が集中しており、地域住民が同じ学校の卒業生という

こともあって「造賀学園同窓会」という組織ができました。同窓会組織の中に当番幹事という役職があり、高校2年生が担当します。これは、昭和34年頃から地元の広島県立西条農業高等学校の生徒が地域行事に参加しており、そのまま現在に至っているようです。

この当番幹事の役割は、地域行事の準備、設営、参加はもちろんだのこと、重要な役割として地域を回つての寄付金集めがあります。地域を回るということによって世代を超えた交流や、郷土愛、地域の一人という意識が高まり、まちづくりの効果につながっています。

また、造賀地区では、「歌で繋(つな)いだ地域の絆」としておやし祭りを開催されています。元東広島市立造賀小学校長岡田良二さんが作詞作曲したテーマソングなどの曲披露してくれました。

●指導・助言

長崎県諫早市「こどもの城」館長

池田尚氏

施設の名前は「こどもの城」だが、「大人の城」ではないかと思っている。親御さんはここにきて、「①心の中に何かを刻んで帰る。②知識だけではなく、行動



を得るための学びの場である。③日常の子育てが面白いと思えるようにしている。

青少年育

成と地域活動のためのキーワードとして、「ホウレンソウ(報告、連絡、相談)」よりは、「シユンギク(旬の話の聞く)」が重要。ホウレンソウは発信者に責任を持たすが、シユンギクは受信者にも情報の伝達に半分責任を持ち、相手のことも理解できる。地域活動の崩壊を防ぐためには、情報を共有するスピードが大事である。

また、大人の方が子どもたちの能力を否定していることが多い。物事を体験する機会を奪っているし、そのプロセスを奪っていると思う。私たちはこれが正しいと思ったことは一度もない。まずは子どもたちにやらせてみて、失敗しても、できるようにするまでのプロセスを認めてあげる。子どもたちが試行錯誤することが重要であることなど、多くの事例を話されました。

最後に、居るだけで褒められる地域社会をつくってきたいという願いを込めて作詞、作曲された「おかえり」という歌で締めくくられました。

●スポーツ体験

スポーツを通じて青少年の育成を図ることを狙いとして、「ニュースポーツである「ユニカール」と「クオリティ」を行いました。地元を持ち帰り、家庭・学校・地域でできるスポーツとして普及啓発し、青少年の育成に役立てていただきたいと思います。

ユニカールは、カールリングとルールが似ており、室内運動場など床にマットを敷いて競う個人競技です。



クオリティは、いわゆる輪投げとルールが似ており、洋風の輪投げです。



●交流会

交流会では、東広島市安芸津町出身の歌手・石川真帆さんが、命の大切さを語り希望に満ちた社会になることを願って制作されたCD「あなたへ」(作詞作曲：元東広島市立造賀小学校長岡田良二)を熱

唱されました。

会場は和やかな雰囲気

が流れ、参加者

はお互いに交

流を深め、情

報交換できま

した。



市町民会議は県民運動を推進する組織です いきいき地域活動紹介

県内各地の市町民会議では、地域の特性を生かした特色あるイベントを開催。今回は広島市西区、庄原市、大竹市、府中町の活動を紹介します。

広島市西区青少年健全育成連絡協議会

NISHIKU

各地区青少協ごとの特色ある事業で、
青少年の健全育成に取り組んでいます

西区青少年健全育成連絡協議会は、18の地区青少年健全育成連絡協議会（以下「地区青少協」と表記）で構成されています。各地区青少協は各々「町内パトロール」「子ども110番の家ウォークラリー」「ふれあい餅つき大会」「三世代グラウンドゴルフ大会」など、特色のある事業を展開。西区全体では、各地区の情報交換や連絡調整のほか、次の二つの大会を実施しています。

青少年によい環境をあたえる運動 西区啓発大会開催

毎年7月「青少年によい環境をあたえる運動」月間に合わせて、西区でも昭和57年からイベントを実施しています。32回目となった今年は啓発大会を7月6日（土）、井口明神小学校体育館で開催。準備と当日の運営は当該地区青少協と井口明神小学校PTAが行い、同校児童によるブラスアンサンブルと西区の広島ジュニアマリンバアンサンブルの演奏で始まりました。

広島西警察署長が若者のスマートフォン等による被害や振り込み詐欺などの事例を紹介。地元の井口明神地区青少協は、「ハイタッチを取り入れたあいさつ運動」の効能を紹介。子どもが顔を上げる、相手をよく見る、元気がでる、スキンシップと心の通い合いなどが挙げられます。レッドソックスの上原浩治投手が行うことでも知られるハイタッチは、かなり効果を発揮しています。運動の導入についてのご相談は、同地区青少協の笹川副会長へ。

西区青少年健全育成大会 ～小学生・中学生の声を聴く会～開催

11月の「青少年健全育成強調月間」に合わせて、「西区健全育成大会」を



11月23日（土）、井口中学校体育館で開催。同大会は第13回から、地域の方も参加しやすいようにと、各中学校の持ち回りとしています。今回の担当は井口中学校PTAと、地元の2つの地区青少協、井口中学校の生徒さんでした。

同校、吹奏楽部のファンファーレを合図に開会宣言。まずは、同校放送部の作品「サイレンの在る町」を鑑賞。本年度NHK杯全国中学校放送コンテストテレビ番組部門で、最優秀賞を受賞しました。スクリーンに映し出される地元の風景や事象に、会場のあちこちから歓声が上がりました。

次に、井口小学校と井口明神小学校から4名、西区内の各中学校から8名の計12名の児童・生徒が意見を発表。「将来のゆめ」「越えたい壁」「かけがえないもの」「本当の強さ」などの題名で、思いを力いっぱい述べました。世代の違いを感じさせるもの、その通りと思わせるものなど、青少年との接し方の参考となるものばかりです。

これら二つの大会の大会宣言に、「私たちは、地域の子どもたちと積極的にあいさつを交わし、明るい地域社会づくりと、あいさつ運動の啓発に努めます」を盛り込みました。夏の啓発大会で学んだハイタッチなどを取り入れ、今後とも積極的に青少年の健全育成に取り組んでいきたいと思っています。



▲標語入り記念品のタオル

わんぱくでもいい、たくましく育てほしい ～庄原市東城自治振興区 青少年育成事業「しごんぼ隊」～

子どもたちの週末活動の支援と、さまざまな体験活動を通じた子ども同士の連帯や親子・地域の高齢者など世代間交流を目的として活動する「しごんぼ隊」。地元東城小学校の児童を対象に、工作、料理、スポーツ、自然体験など多種多様な活動を行っています。

活動を始める十数年前は、放課後児童クラブのような学校活動以外に遊び遊べる場がなく、世代を超えて交流できる機会はほとんどありませんでした。このような状況をなくそうと、当時の生涯学習拠点だった東城公民館で「しごんぼ隊」が産声をあげました。

平成24年度で公民館は廃止となりましたが、25年度からは地域住民で組織された庄原市東城自治振興区で、生涯学習活動の一つとして毎月1回の活動を継続。会員数は児童40人。地域の方を講師に迎えたふるさと探訪や自然散策など、月替わりの体験活動を通して、たくましい子どもを育成中です。



五品嶽城跡を散策、自然観察も

5月は、地元東城町の歴史を学ぶ「ふるさと探訪」と題し、身近な城山でもある五品嶽城（ごほんだけじょう）跡を散策しました。標高約500mの山頂へ続く細い山道を一步一步踏みしめながら、山城の痕跡を巡りました。講師によると、山全体が要塞（ようさい）のような造りになっていたとのこと。「城山」と親しみを込めて呼んでいた山が、本当にお城だったことが分かり、興味が一層高まります。

山の中は巨木や自然植物も豊富。探訪では樹齢約200年のスギやカヤの幹回りを測定したり、南国ウラシマ草やシダ、トリカブトなど珍しい野草の観察も行い、充実した内容になりました。

東城自治振興センターでサマードリームキャンプ

8月の「サマードリームキャンプ」では、キャンプファイアを行いました。会場は、今年4月に建てられたばかりの東城自治振興センターです。

最初のゲームは、大人とジャンケンをして、3人連続で勝ち抜けばパズルのピースが入った封筒を探せるというゲーム。「ジャンケン、ポン!」の真剣なかけ声や、勝ち負けに一喜一憂する声、封筒を探し当てた楽しそうな歓声が絶え間なく響いていました。

そのあとは2チームに分かれて夕食作り。飯ごうチームは、飯ごうの扱いに戸惑いながらも楽しげな様子。舞い上がる火の粉にのけ反りつつ、石窯の火の上に飯ごうをそーっと載せていきました。「炊き上がるまではフタを開けちゃダメ」「飯ごうに棒を当てて、中の音を聞いて炊き上がりを確認する



んよ」と講師。子どもたちは代わるがわる棒を飯ごうに当て、炊き上がりを待ちました。

餃子チームはタネ作り。大量のキャベツをミジン切りにするうち、包丁さばきも上手に。皮で包むのに苦労しながらも、たくさんの餃子ができました。炊きたてのご飯でおにぎりを作り、おいしい夕食が完成しました。

キャンプファイアでは燃え盛る炎を囲み、歌ったり踊ったりと存分に身体を動かし、楽しいひと時を過ごしました。炎が弱まり辺りに暗闇と静寂が戻ったころ、子どもたちの顔には笑顔が満ちていました。

子どもたちは、無限の可能性を秘めています。「しごんぼ隊」で育んだ経験と郷土への思いが心の中に咲く花となり、「わんぱくでもいい、たくましく育てほしい」と願っています。

「経験は力に、力は自信に」「子どもの力が地域の力になる」。そう信じて、これからも活動を続けていきます。

原始生活体験キャンプ「野性への挑戦」 ～協調性、自立心、責任感を育てる～



8月1日(木)から3泊4日の日程で、原始生活体験キャンプ「野性への挑戦」を開催しました。

大竹市青少年育成市民会議発足時から始まった「ジュニアリーダー研修」に試行錯誤を加えたもので、今年度で40年目を迎える看板事業となっています。「野性」すなわち私たちの先祖が生活していたころと同じような生活を体験し、子どもたちが豊かな自然の中で、お互いを尊重しながら友好を深め、子どもたち自身で立案したすべてのプログラムを実行していくという生活を体験するもの。協調性や自立心、責任感を育てることを目的としています。

対象は大竹市内の小学校4年生～6年生で、今年度は25名が参加し4つの班に分かれて活動しました。テントの設営や野外炊飯など普段の生活と違い、キャンプ生活では自分たちで

動しなければ寝ることも食べることもできません。そのため、班長をはじめ食事係やテント係等、一緒にキャンプ生活を送る仲間と役割を分担。全員が自分の責任を果たすことで、何もないところから自分たちの「野性への挑戦」をつくり上げていきました。途中大雨に見舞われる場面もありましたが、当市民会議の下部組織である「まちづくりジュニアスタッフACT」に所属するお兄さん・お姉さんたちのサポートのもと、無事に4日間を乗り切ることができました。

会場である市井原キャンプ場には川も山もそろっているため、自然を思い切り満喫することができました。川遊びや釣り、木工細工、昆虫採集のほか、今年度は、当市民会議の推進員が審査役となる班対抗の料理・クラフトコンテスト、月明かりとホテルの光を頼りに暗闇の中をみんなで歩いたナイトウォーク、一つの炎を囲んで仲間との友情を確かめ合ったキャンプファイアなど、さまざまな企画を実施しました。キャンプ生活ならではの楽しみを体験し、スイッチ一つで遊べるテレビゲームとは違った楽しみを見つけれられたようです。

また、大事なお子さんを親御さんから4日間も預かるわけですから、推進員にはさまざまな心構えが必要に



なります。例えば、水の事故。命の危険も伴うため、大きな注意が必要なものの一つとして挙げられます。水の事故の対策としては、「本部に届けた者しか水に入らせない」「必ずバディーを組ませる」「準備運動を徹底する」「休憩を入れる」「監視人は余裕をもった人員配置をする」などが挙げられます。当事業ではこれらを徹底しているため、水の事故は今まで1回もありません。

外傷を伴う危険だけでなく、キャンプには精神的な配慮も必要です。野外でのキャンプ生活は平素の家庭の中のそれとは環境が変わっており、子どもたちには精神的に興味と不安が混ざった状態に置かれているためです。例えば、最初はおとなしくしていた子が、急によくおしゃべりをしたり、騒いだりするのはなぜであるかなど見極める必要があります。子どもたちに対して感情的にならずに、できるだけ優しい言葉で対処することをいつも心掛けています。

近年は、少子化、学校や他団体による野外活動行事の増加等により参加者数が減少しています。一方で、少人数となることで個人個人との関わり合いがより深くなり、参加者一人一人の成長をより大きく感じることができるようになりました。

真夏に約2カ月かけて行う準備は苦勞も多いですが、子どもたちの笑顔を支えに、これからも推進員一丸となって頑張っていきたいと思えます。



青少年育成府中町民会議

FUCHU

家庭・学校・地域・行政が一体となって 「地域ぐるみ」で青少年を健全育成

青少年育成府中町民会議は青少年が健やかに成長することを願って、昭和57年8月に結成しました。最近の主な活動を紹介します。

こども110番の家

子どもたちが危険にさらされ、助けを求めてきた場合、緊急避難場所として一時的に保護し学校や保護者に連絡していただいています。PTAでプレート掲示協力者に、日ごろのお礼と活用状況についてアンケート実施を毎年行っています。児童の身に危険がおよぶ事例は特に報告されていません。

さわやかあいさつ運動

地域の子どもたちを見守り育て、また地域の大人たちとのコミュニケーションを図ることを目的としています。毎月17日の青少年の日に、町内の学校の正門や近辺で実施。現在では、学校の児童生徒があいさつボランティアとなって、元気な声であいさつをしています。

祭り巡視

祭り開催時に地域・学校・PTAが連携をとり、多家神社、鹿籠神社周辺を声かけをしながら歩き、子どもたちを見守っています。

新春子どもカルタ大会

府中町カルタ（町民からの投稿、町民の手製で完成したもの）を使い、子ども会のチーム対抗戦や個人戦で競います。地域連帯意識を深めることが目的で、府中中学校、府中緑ヶ丘中学校の生徒会執行部やボランティアが主体となって運営しています。毎回、白熱した競技が繰り広げられています。今年は1月19日に開催しました。



白熱する「新春子どもカルタ大会」

こども祭り

世代を超えた地域の人たちとの触れ合いの中で、古くから伝わる文化や遊び、餅つきなどを体験します。広島県立安芸府中高等学校の生徒ボランティアに協力いただき、今年度は12月8日（日）、府中南公民館で開催しました。

町内の子ども会町内会から330名が参加。児童たちは高校生と触れ合いながら、昔遊びや工作、餅つきなどを楽しみました。普段なかなかできない体験ばかりで、会場のあちらこちらで元気な声が響きました。



こども祭りは普段できない経験ばかり

家庭の日の作文

入選作文集は、今年度で31集となります。昭和58年第1集は町内から66点



これまでの「家庭の日の作文入選作文集」

の応募があり、現在では3,000点を超えます。今年度は3,372点の応募がありました。家族を語った心温まる作文や、ボランティア活動で地域の方と交流し気付いたこと、当たり前がどんなに幸せであるかを考えさせられたなどの作文が寄せられています。

入選者表彰式は、府中中学校、府中緑ヶ丘中学校と広島県立安芸府中高等学校のボランティアが合同で、会場設営から司会進行まで携わっています。児童による作文朗読は思わず吹き出してしまったり、涙があふれたりという参加者の心に響くものばかりです。

また、夢配達人プロジェクトで、吉川晃司さんと一緒に作った「あの夏を忘れない」という歌の楽譜を、学校で使用される場合のみ提供しています。



CD
「あの夏を
忘れない」

このほかにもたくさんの場面で、青少年の健全育成のために取り組んでいます。永年の町民の地域ぐるみの活動に対して今年度、青少年健全育成功労団体知事表彰をいただきました。引き続き地域の子どもは地域で守り育てるという意識を常に持ち、あらゆる活動に取り組んでいきたいと思えます。

【遊び場所】

外で遊びにくくなっている

放課後など、地域に子どもたちが遊べる場所があるかどうかについては、77%が「ある」と回答。その場所は、地域の公園が多数、そのほか公民館、図書館、老人福祉センター、コミュニティセンターが挙げられています。遊び場所で子どもたちを見守る人がいるのは約半分です。

「遊べる場所がない」と回答した人のコメントには、「公園が近くにない」「農村地域で児童館がない」という物理的な事情とともに、「ゲームをする傾向にある」「連絡を取り合っただけで遊んでいる」「子どもたちの数が減り、集まって遊ぶことが少ない」「活動場所が異なり、子ども同士で遊ぶことが難しい」など子どもたちのライフスタイルの変化による理由も多く見られました。

【コミュニケーションの取り方】

非行の抑止力として期待

「普段、子どもたちとコミュニケーションをとっている」と回答したのは84%。日ごろのあいさつや声かけ、地域行事、また小学校や中学校に赴いて原爆や昔のことを語ったり、囲碁や将棋などの遊びを通して触れ合っている様子が見られます。そのほか、夏休み中のラジオ体操、児童館でのお化け屋敷といったユニークな取り組みも報告されています。

コミュニケーションをとることで「子どもたちが明るくなった」「打ち解けることができる」「親近感が生まれる」という効果があり、「犯罪の抑

止力になる」と回答。「子どもたちに見られている大人もきちんとしなければならぬ」と自身を振り返るコメントもありました。一方で、「返事がかえってこないのが残念」「自分中心の子どもが多く大変」といった声も見られました。

コミュニケーションをとっていない理由は、「過疎化による子どもの減少」「子どもと会ったり会話する機会が皆無」「知らない大人を避ける」など。コミュニケーションをとりたくてもとれないという実態も見えます。

【インターネット情報について】

必要性を検討、使い方の理解が必要

携帯電話の持たせ方について聞いたところ、「高校生まで持たせる必要はない」という意見が33%で最多。続いて「高校生から持たせるべき」29%、「中学生から」10%、「小学生から」8%でした。

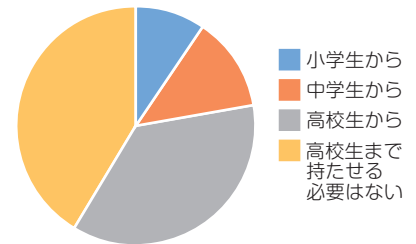
その理由は、「事件に巻き込まれる危険性」「コミュニケーション能力の低下」といった意見が多く見られます。ただ、子どもたちのクラブや塾などの夜間活動が増えたことや、一人歩きが危ないという現状から、安全性の確保のための携帯電話の必要性を訴える声もありました。

インターネット等で子どもたちが巻き込まれた問題については、「ホームページを開設した時に、嫌がらせの声が入る」「料金がたくさん求められて相談された」「中毒になっている」「アダルトサイト」「言葉づかいが荒いゲームが多い」などが挙げられています。このような問題に巻き込まれないための対策として、学校や保護者への研修会、啓発パンフレットの配布のほか、「面と向かって話すことの大切さを説く」という意見もありました。

そのほか、インターネット等で有害であると思うことは、「のめり込んで勉強の妨げになる」「メール、ラインで見ず知らずの人と容易に知り合いになれてしまう」「有害サイトなどに

簡単にアクセスできる」など。そこで、「携帯電話の危険性などを理解させた上で持たせたい。少々不便だということも経験させたい」「使用方法や、十分な話し合いができていないか、約束事など十分な話し合いができていないのが大切なことである」といった意見もありました。

■携帯電話はいつから持たせるべきか？

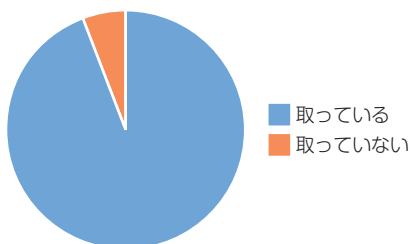


まずは大人から変わるべき。連携を深め、活動を継続していきたい

情報通信はどの年代にとっても身近な存在となり、スマートフォンや携帯電話などは子どもたちもすぐに触れることができます。アンケート回答者からも、「急速に進歩した情報通信の世界について、まず大人が理解できるように勉強したい」、また「時代に合った携帯電話やスマホ等を使った若者たちの行動をもっと知りたい」、そして「それがどうなって若者が危険な目に合うか知りたい」といった意見もありました。

青少年育成広島県民会議としても、今回のアンケートの結果を踏まえて、「最新のスマホやアイホンの機能」、「若者たちの利用実態」、「被害の状況」等を学習する機会つくっていく必要があると感じています。「大人が変われば子どももかわる」まずは私たちから実践してみましょう。

■コミュニケーションの取り方について



「青少年を取り巻く環境」調査結果報告

青少年育成地域リーダーを対象に、「平成25年度 青少年環境モニター調査 青少年の健全な育成のために」を実施(回答79通)。青少年を取り巻く環境と、青少年健全育成に向けた活動状況や意見をまとめました。

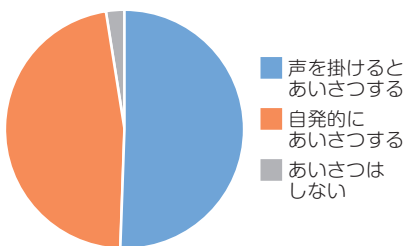
【あいさつ】

あいさつ・声かけ運動で顔見知り

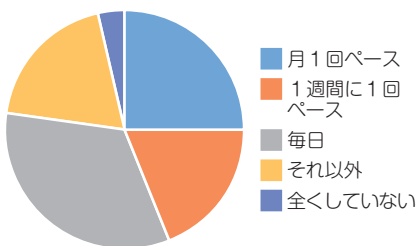
子どもたちの登下校中のあいさつの実態は、「声をかけるとあいさつをする」「自発的にあいさつをする」は約半々でした。

青少年育成広島県民会議が展開する「あいさつ・声かけ運動」の地域での実施頻度は、最も多かったのは「毎日」35%、「月1回」と「週1回」が同率

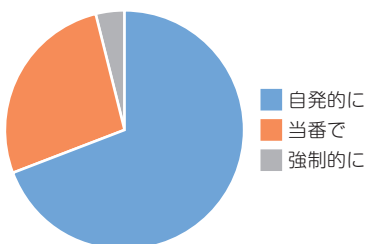
■登下校中のあいさつ状況



■あいさつ・声かけ運動の頻度



■あいさつ・声かけ運動の参加状況



で20%。場所は、通学路や小学校の校門、通学路の交差点といった学校周辺に集中しています。同運動に参加する際の意識について聞いたところ、「自発的に参加している」と答えたのは全体の約68%、残りは「当番」と答えています。

同運動の具体的な効果で多く見られたのは、「顔見知りの人たちに声をかけられると、知らず知らずのうちに人間関係が少しずつでも出来上がってくる」といったコミュニケーションが活性化。「あいさつは人間関係の始まりで、あいさつなくして人間は育たない。あいさつのできるような温かい地域であるよう望みたい」とのコメントもありました。

「子どもたちの状況が分かる」というコメントも目立ち、接し方の参考になっている様子も見受けられます。「服装の乱れ等非行に早く気づく」「何かあった時に地域の人を知ることにより心のブレーキがかけられる」など、子どもたちの非行予防につながる効果も見逃せません。平成25年度も、昨年度と同じペースで同運動を行う予定であることも分かりました。

【清掃活動】

共通体験で絆づくり

地域で子どもたちと一緒に清掃活動を行っているかどうかを聞いたところ、行っているのは54%と半分強。その頻度は1年に1回が最も多く、続いて6か月に1回、1か月に1回と年に1回以上は行っていることが分かります。場所や

内容は、学校周辺、公園、通学路、商店街で、小・中学生と一緒に清掃やゴミ拾い、空き缶回収、花植えなどの整備に取り組んでいます。

清掃活動の効果は、「親子や地域の人のとの触れ合いによる絆ができる」「学校での様子が分かる。日ごろ考えていることを知る」「街をキレイにすることで青少年がゴミを道路などに捨てるなくなる」などが挙げられています。

【レク・スポーツ等の行事】

一緒に楽しみ、連帯感でつながり深まる

地域で子どもたちが参加できるレク・スポーツ行事は70%が「ある」と回答。その内容の上位をみると、1位は祭り(夏祭り、冬祭り、子どもまつり、町内まつり、神社祭など)。続いて小学生ソフトボール、小学生フットボール、少年野球、子ども会行事などです。活動の頻度は1年に1回が最多です。

いずれの行事も、大人も子どもも気軽に楽しく参加しながら、交流ができ顔見知りになれることが最大のメリット。「何か一つのことに熱中して技を高め、つながりを高める」「祭り行事は自分の住んでいる場所への愛着が生まれる」「学年を問わず地域の子どもの顔と名前、本人の長所がよく分かり褒めることのきっかけづくりになる」「親と子の交流が増え、連帯感が形成される」「注意し合える環境もでき、問題を起こさない子ども環境になっている」といったコメントもありました。顔と名前が一致し、地域で青少年を見守る活動の土台となっていることが分かります。また、「三世代交流を」「四世代交流事業を」と世代間交流への期待も寄せられています。

一方で、17%が「行事が行われていない」と回答。その理由は、行事のPR不足、大人の関心のなさ、子どもの数が少ない、活動に忙しくて手が回らないなど。見直して改善できることがありそうです。

青少年育成カレッジ「総合講座」の紹介

(公社)青少年育成広島県民会議では、公立大学法人県立広島大学と連携して、「青少年育成カレッジ」を開講しています。青少年の心と健康、行動などを理解し、すこやかに育むための知識や技術を学ぶ内容で、「分かりやすい」と受講者から好評です。

平成25年度の総合講座は「不登校」をテーマに取り上げ、平成25年10月5日(土)と12月7日(土)に開催しました。

※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.hiro-payd.or.jp>

第1回 「不登校～若者の悩みにどう応えるか」

講義 1

■「若者の鬱(うつ)の最近の傾向と周囲の受け止め方について」

2007年あたりから、「新型うつ病」という言葉がマスコミでもセンセーショナルに取り上げられています。医学的には「新型うつ病」という病名は存在しませんが、若者を中心に従来型とは違う「うつ病」が現れる傾向にあります。今回は、その特徴や対処法などについて学びました。



藤巻 康一郎

県立広島大学保健福祉学部 作業療法学科 教授
精神科医

講義 2

■「若者の悩みの現状とその対応について～カウンセリングを通じて」

時に若者の内的世界は嵐のように激しく、複雑な一面を持っています。私たち大人はそのような局面に立っている若者をどう理解し、対応すればよいのでしょうか。ほんの一部分ですがカウンセリングを通じて触れることができる若者の悩みの現状と、その対応についてお伝えしました。



石原 克秀

県立広島大学保健福祉学部 看護学科 助教
臨床心理士 看護師

講義 3

■「不登校にいたる若者の陥りやすい悩みの現状について～学生相談を通じて」

不登校18万人、引きこもり160万人、ニート60万と深刻な状況です。彼らは何を悩み、苦悩しているのか統計をもとに紹介。これらを改善していくために、家庭、学校、地域におけるコミュニケーション能力と社会と意図的につながる力(ソーシャルボンド)の必要性について考えました。



金山 健一

県立広島大学 総合教育センター 准教授
学生相談室長

講義 4

■パネルディスカッション

講師を務めた金山先生、石原先生の司会進行のもと、参加者から質疑や意見が出され大いに盛り上がりました。新しい型の講義だったと、参加者からとても好評でした。

金山 健一
石原 克秀



第2回 「不登校～当事者から学ぶ」

講義 1

■「不登校とその背景」

不登校は、「学校に行かない・行けない」という行動こそ共通していますが、背景には発達、家族関係、経済状態、学校体制などさまざまな要素の影響があります。非行、ひきこもりなど、多様な事象とも関連しています。ここでは、不登校のきっかけとなった事柄、不登校への対応について学習しました。

永吉 美香

県立広島大学保健福祉学部
作業療法学科 助教



講義 2

■「学校現場から」

定時制高校という教育現場で、さまざまな事情を抱えた生徒たちと長年にわたり正面から向き合ってきた経験をもとにお話しいただきました。また、学校現場で見せる生徒たちの本当の気持ちや素顔を短歌にしたための冊子が配布され、その内容をスクリーンに映し出しながら話される手法は参加者の心に響くものがありました。

田坂 利明

尾道市立
広島県尾道南高等学校
特別支援教育支援員



講義 3

■「当事者・保護者の気持ち」

不登校を経験した青年や不登校の子どもをもった保護者の方から、それぞれの立場で不登校のリアルな実態、関連する問題について話をいただきました。当事者、保護者ならではの話せない不登校の実態や背景などを聞くことができ、理解が深まりました。

司会進行：
永吉 美香

事例発表：
当事者、保護者



講義 4

■質疑&フリーディスカッション「不登校について、できること」

グループ編成をして、子どもの立場、親の立場などについてディスカッションする時間をもちました。それぞれのグループから、子どもたちが豊かに育つためには何が必要かをテーマごとに発表していただき、率直で建設的な意見交換の場となりました。

司会進行：
永吉 美香

事例発表：
当事者、保護者



● 講師
金山健一さん

PROFILE

【かなやまけんいち】

県立広島大学 総合教育センター
准教授 学生相談室長



青少年育成カレッジ講師の寄稿く学生相談を通してく

不登校にいたる若者の陥りやすい傾向と対応策

1 日本の若者が危ない

今、青少年の抱える問題は深刻な状況です。いじめ、不登校、引きこもりなどの問題に加えて、ネット依存、出会い系サイトなど、新たな問題にも直面しています。では、具体的な数字でみてみましょう。

引きこもり160万人(NPO法人引きこもり親の会、2002年)、ニート63万人(内閣府、2012年)、フリーター180万人(内閣府、2012年)、不登校(小く高校)17.3万人(文部科学省、2011年)、高校退学者5.4万人(文部科学省、2011年)、加害児童生徒5.4万人(文部科学省、2011年)、いじめ(小く高)7.0万件(文部科学省、2011年)、少年犯罪11.6万(警察庁、



2012年)、児童相談所における虐待相談件数6.6万(厚生労働省、2012年)。合計456.3万人です。

もちろん重複している人数もありますが、広島県の人口284万より多い数字なのです。

引きこもりの全国調査

- 1 NPO法人全国引きこもり親の会 WEB発表 2002年
 - ①引きこもり……………164万人
 - ②引きこもり世帯……………30軒に1軒
- 2 NHK福祉ネットワーク 2005年
 - ①引きこもり……………160万人以上
 - ②準引きこもり(稀に外出する程度)……300万以上

2 不登校・引きこもりの子どもを抱える親の苦悩

数年前、ある街の学芸に行った時のことです。年配の方々が、市民会館に向



かつて大勢で歩いていました。大物演歌歌手のコンサートでもあるのかと思いいその集団の波に加わり、市民会館に向かいました。そこは、引きこもりの子どもを持つ親の会の集まりでした。隣の席の老夫婦は、私に声をかけてくれました。「お兄さん、偉いね。引きこもりの人によくここまで来られたね。」私は苦笑するしかありませんでした。その老夫婦の息子さんは、中学校の時から学校を休みがちで、高校1年から不登校になり、20年近く引きこもっているようです。「働いてほしい」と息子に言うとう殴られたとのこと。「年金生活で大変だ。もし、私たちが死んだらいいたい息子はどうなるのか」と心配していました。

3 国のニート・フリーター 対策費は約750億円

不登校の延長でニートや引きこもりになっている若者は多いです。政府はニート・フリーターへの対策を含めた「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン」という政策を実施し、平成17

年度756億円、平成18年度761億円の税金を投入しました。その後も、ほぼ同じ規模の税金を投入しましたが、効果がないといつことで廃止になりました。

10年以上、ニートや引きこもりになつていて人を救つことはかなり困難です。人のかかわりができないのです。不登校になる前の予防的な取り組みが必要です。

4 「ソーシャル・ボンド」と 「たくましさの育成」

映画「007」のジェームズ・ボンドではありません。不登校対策では、心理学でいう「人とつながり・つながる」「ソーシャル・ボンド」が重要です。不登校の子どもは、友達同士のつながりが少なく、孤立しがちです。そのため相談や支えてくる仲間がいなくて、ちょっとしたことでつまずき不登校になる傾向があります。

県立広島大学では、学生が学生をサポートするピア・サポートを実施し、人間関係づくり・コミュニケーショントレーニングなどの研修を通して、ソーシャル・ボンドづくりを

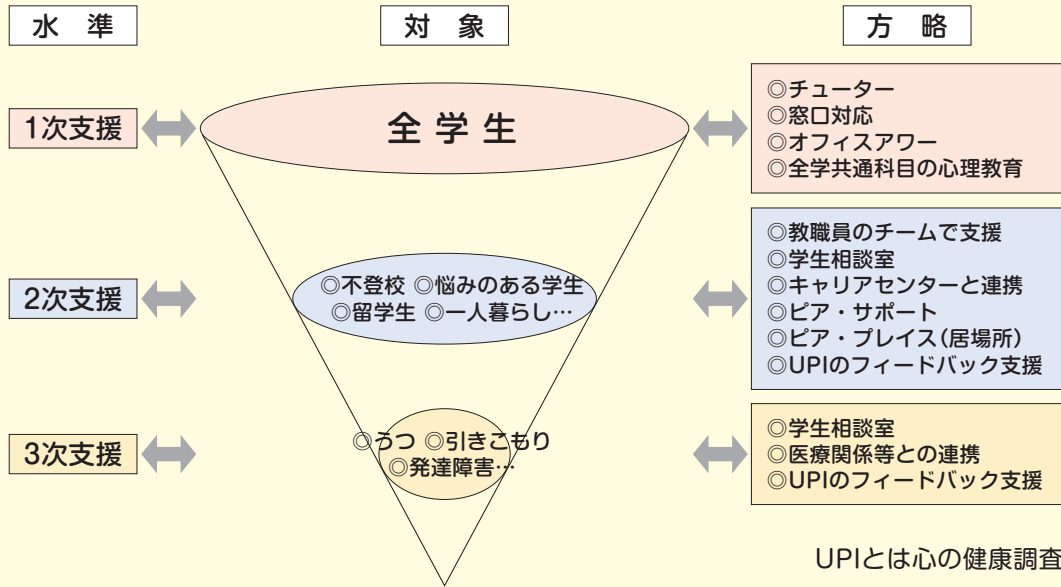
ピア・サポート研修会
in 大久野島

つながる

ソーシャル・ボンド



包括的学生支援モデル (砂時計モデル)



しています。
また、たくましが足りない場合も、不登校になりがちです。親の極端

な過保護、過干渉も子ども自身で解決できる力を奪っていきます。ゲームではたくまさは育ちません。悩みや課題に向き合い、さまざまな体験を通してたくましが育成されま

す。家庭が不安定で心の居場所もない場合や、いじめが原因で不登校になる子どももいます。不登校の原因・背景はさまざまですが、現実から逃げないで向き合う心を育成する必要があります。

5 県立広島大学での不登校対応

大学生の悩みや相談はさまざまです。県立広島大学の学生相談室では、全学生のサポートを入学から卒業するまで、一人一人に応じて展開していきます。不登校の学生を含む悩みや課題を抱える学生の早期発見・早期対応と教職員のチーム支援、学生同士のピア・サポート活動等の包括的学生支援モデルを実施しています。

1次支援では、全学生を対象に、チューター(担任の先生の役割)を中

心にサポートしています。

2次支援では、大学を休みがちの学生・悩みのある学生・留学生・一人暮らしの学生を対象に、教職員のチーム支援・学生相談室などでサポートしています。

3次支援では、うつや発達障害など心の問題を抱えた学生を対象に、医療機関と連携しサポートしていきます。このモデルは小学校から高等学校でも汎化でき、実践している学校・地域では大きな成果と効果を上げています。

6 心を育てる

心を育てる、心が育つとは、人格的に成長するということです。今という現実から逃げない自分になること、今、いやなことがいやでなくなることは、自己の内省が深まることによってできるのです。哲学者ヤスパーは「あやまち、あやまちを犯すから学ぶのだ」と述べています。不登校という挫折・失敗も、成長のための人生への贈り物と捉え直しをすることができます。

● 講師
永吉美香さん

PROFILE

【ながよしみか】

県立広島大学保健福祉学部
作業療法学科 助教



「不登校〜当事者から学ぶ」

青少年育成カレッジ講師の寄稿

1 はじめに

文部科学省の定義では、不登校は「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため、年間30日以上欠席したもののうち、病気や経済的理由による者を除いたもの」となっています。つまり、不登校は登校しない・できないという現象のみ共通しており、背景や原因は多様です。今回の講座では、このように多様な不登校について、当事者の経験を聞き、話し合うことを通じて、考える試みを行いました。

不登校とは？

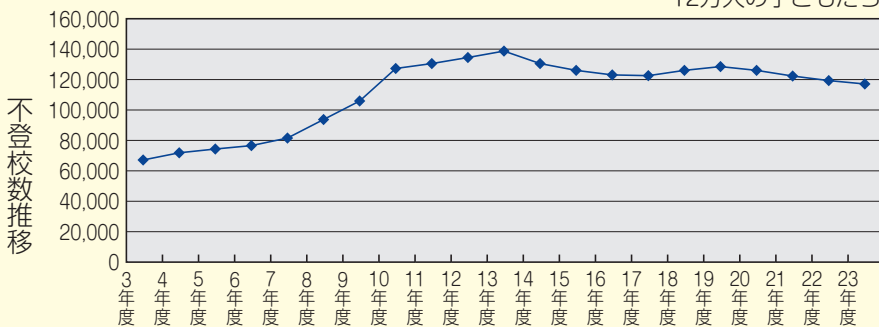
何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため**年間30日以上欠席した者**のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの



文部科学省定義

不登校数 (小1～中3)

12万人の子どもたち



平成23年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査 総務省統計よりグラフ化



2 学校に行くのは何のため？ ことも自身にとって 大事な事とは？

まず、下準備として「学校って何のために行くの？」というテーマについてグループ討議を行いました。結果、学校は社会人になる準備のために、知徳体^{ちとくたい}を学び、自己を知り、社会性を身に付けるために通うものだったという意見が出されました。討議の過程で、「大人目線の意見ばかりだ」「ここには大人しかないのだし仕方ないではないか。そんなことを言うならことも連れてきて聞くしかなくなる」という印象的なやりとりがありました。平常、あまり意識されていない、「教育する私たち大人の目線は、こともとは異なる」という事実を意識化できた瞬間だったと思います。

その次の討議テーマは、「学校ですることの中で、ことも自身にとって大事なことは何か？」でした。こともは友達と遊ぶこと、体を動かすこと、給食を食べることなどを楽しみしながら、家庭ではできない経験を積み、達成感や

有能感を得ているといった意見が挙げられました。こともが、学校での毎日を通じて経験しているのかに思いをはせる時間となりました。

3 こともは、これほど、 それぞれに違う

続いて、当事者のお話を聞き、感想を語り合いました。今回は、不登校の経験のある方、こともが不登校を経験した保護者の方、小中学校で不登校を経験したこともたちが多く通う定時制高校の先生にお話をいただきました。また、不登校中のこともとその保護者に行った事前インタビューも紹介しました。各々が語ってくれた体験談は、本当に示唆と説得力に富むものでした。参加した私たちが当事者のお話から学んだことの1つは、あつひく「こともは、これほど、それぞれに違う」ということ、そして「これほど違うこともが同じように振る舞うべきだ」という圧力によって学校から押し出されつつある構図^{かまう}だと思っています。

こともは、興味や得手不得手も違え

ば、力を発揮できる環境条件、解り方、気持ちの表現方法も違います。友達関係、クラスの雰囲気、担任との相性、家庭での出来事も全て異なっています。当然、同じように振る舞えるわけがないのですが、先述の教育における大人目線によって同じように振る舞うべきだという圧力を強くかけると、居心地が悪くなることもが増えてきます。

不登校について考える際には、まず各こともに事情を聞いてみるべきなのではないかと思えます。学校に行きたいけど行けないのか、行きたくないから行かないのか。そもそも、不登校は本人にとって問題なのか。そこから大人の予断や期待を交えず、きちんと丁寧に確認するステップが大事だと思います。



**4 悪者を探すのではなく
こどもとタグを組んで
建設的に**

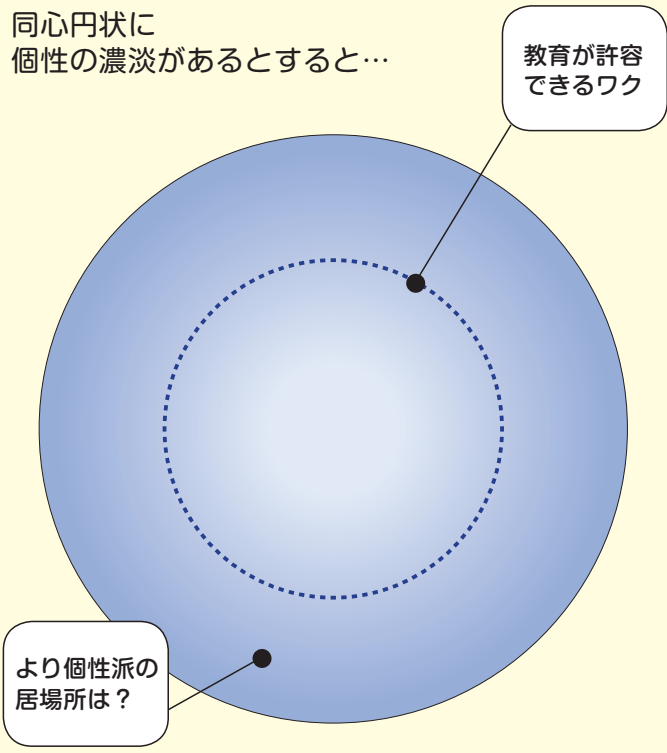
関連することとして、不登校について考える際に、私たち大人は「誰か(親、先生、クラスメート、その子の性質等)に問題がある」と考えがちですが、その考えにはまらないこの大切さも、私
が今回思いを強くした点です。さまざま
まな要因は連なり合っていて、誰かを

悪者にして責めると別のひずみが生まれ、最終的には、こどもを追い詰めるように思えます。

私は作業療法士なので、人、環境、作業の3つのポイントから物事を分析しアプローチを考える癖があります。不登校の場合だと、その子自身(人)、物理的環境や教師や友達の要素など(環境)、学校で行うことの内容や難易度等(作業)を分析し、どこにアプローチするの
が有効かをこどもや保護者や学校の先

同質性VS多様性

同心円状に
個性の濃淡があるとすると…



5 登校しない選択肢の重要性

生方と協力しながら見つけていきます。このやり方は、皆で解決しよう、タグを組もう、つまりこどもの味方になろうとする流れをつくるのに適しており、建設的な結果につながりやすいと感じています。

今回我々が学んだこのもう一つは、登校しない選択肢の重要さだと思えます。今通っている学校に行き続けることに本人のメリットがない場合、きちんと休むことや、ほかの選択肢を選ぶこと、選べる良質な選択肢が地域に多くあること、本人や保護者を支える人や場を確保することの大切さをお話から知ることができました。

不登校は単純ではありません。だからこそ、本人や保護者の味方になり支える人になること、いろんなこどもが違ったままでのびのび育つ懐の深い地域をつくるのが、私たちにできる最大のことでないかと思えます。

毎月17日

青少年の日

毎月第3日曜日

家庭の日

11月1日～11月30日

子ども・若者育成支援強調月間

青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の複雑多様化した青少年をめぐる問題に、国、県、市町の行政や青少年団体など関係機関と連携し、県民総ぐるみの育成運動として取り組んでいます。あいさつ・声かけ運動、少年の主張、夢配達人プロジェクト事業、青少年育成カレッジなど幅広い内容です。平成20年の法改正に伴う申請手続きを済ませ、平成23年度に公益社団法人に移行しました。

〈概要〉

設立 昭和41年12月7日

法人格取得 平成2年10月21日

認定日 平成23年3月22日

育成基金 5億円(平成3年度設立)

会長 上田宗岡(茶道上田宗箇流家元)

(公社) 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52

広島県環境県民局県民活動課内

TEL 082-513-2742

FAX 082-511-2173

<http://www.hiro-payd.or.jp>

会員加入のお願い

私たちがそうであったように子どもたちはやがて大人になっていきます。青少年が夢を持ち、健やかに成長し、自分が育った地域を愛し、社会を構成していくことは私たち全ての願いです。そのための活動を県民運動として取り組んでいます。

県民の皆様方に会員になっていただき、この活動へのご支援をお願いしております。活動の内容は、『はぐくむ』の中をご覧ください。

■ 賛助会員

会費／個人 年額1口 1,000円

団体 年額1口 10,000円

■ 正会員

会費／個人 年額1口 3,000円

団体 年額1口 5,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」、情報誌「はぐくむ」をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行
振込先

広島銀行県庁支店

□ 座番号／(普通) 233251

□ 座名義／(公社) 青少年育成広島県民会議



広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー

「ゆっぴー」は、府中町の小学生が太陽とライオンをモデルに、“元気に明るく育つ青少年”をイメージしてデザインしました。

